

# 日常生活動作学

《担当者名》○鈴木英樹 hideki-suzuki@hoku-iryo-u.ac.jp 長谷川純子

## 【概要】

日常生活活動（動作）の評価と支援は理学療法士にとって重要な役割の一つである。本講義においては、日常生活活動についての基本的概念や、様々な日常生活における諸動作及び活動の意味を理解するとともに、日常生活活動に関する様々な評価手法を学ぶ。また、国際生活機能分類（ICF）についての理解を通じて、理学療法士として実践的な日常生活活動に関する技術や知識を習得する。

## 【学修目標】

### 一般目標

日常生活動作（活動）の具体的内容や支援方法を理解するために、ICFや日常生活活動の具体的内容、評価及び指導方法を理解する。

### 行動目標

1. 日常生活活動の基本的概念を説明することができる。
2. 日常生活における諸活動の意味について説明することができる。
3. 日常生活活動に関する評価手法について理解し説明することができる。
4. ICF概念について理解し説明することができる。
5. 日常生活活動と関連させ、生活関連活動の評価手法について理解し説明することができる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	人々の生活の多様性	・オリエンテーション ・人々の生活の多様性についての理解 ・日常生活活動（ADL）の範囲に関する理解 ・疾病や障害が人々の生活に及ぼす影響についての理解	担当者全員
2	人々の生活の成り立ちと構成	・人々の生活の成り立ちや構成についての理解 （1日単位、1週間単位、1年単位） ・自助、互助、共助、公助についての理解	鈴木英樹
3	人々の生活の成り立ちと構成	・公助についての理解 ・各種制度（介護保険、福祉制度、医療制度）についての理解	鈴木英樹
4	生活の捉え方	・ICFの基本構造及び構成要素についての理解	鈴木英樹
5	生活捉え方	・ICFにおける各構成要素の関連性についての理解	鈴木英樹
6	ADLにおける基本動作の理解	・起居、移乗、移動動作の理解	鈴木英樹
7	ADLにおける基本動作の理解	・食事、排泄、入浴、整容動作の理解 ・ADLと手段的ADL（IADL）の関係性の理解 ・IADLの理解	鈴木英樹
8	起居、移乗、移動動作への働きかけ	・起居、移乗、移動動作に対する福祉用具の適用に関する理解	鈴木英樹
9	起居、移乗、移動動作への働きかけ	・起居、移乗、移動動作に対する住宅改修に関する理解	鈴木英樹
10	ADLの評価	・ADLの評価方法（Barthel index）に関する理解	長谷川純子
11	ADLの評価	・ADLの評価方法（FIM）に関する理解	長谷川純子
12	IADLの評価	・老研式活動能力指標、LowtonのIADLスケール、FAIに関する理解	長谷川純子
13	その他ADLやIADLに関連する評価	・介護予防チェックリストに関する理解 ・QOL関連評価に関する理解 ・ICF評価点に関する理解 ・家族関係や介護負担に係る評価法に関する理解	長谷川純子
14	人々の生活を彩るもの	・人々が有する価値観についての理解 ・人々の興味関心についての理解	鈴木英樹

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		・人々の生きがいについての理解	
15	まとめ	・15回の講義を振り返り、理学療法(士)と日常生活活動の関連性について理解を再確認	担当者全員

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

定期試験(筆記試験) 90%

講義内に実施する小テスト 10%

定期試験及び追再試験後、問合せがあった場合には模範解答を提示する。

【教科書】

中山恭秀 編 「Crosslink 理学療法学テキスト 理学療法評価学」 メディカルビュー社 2022年

【参考書】

伊藤利之 他 編 「新版 日常生活活動(ADL)～評価と支援の実際～」 医歯薬出版 2010年

尿尿・下水研究会 編著 「トイレ」 ミネルヴァ書房 2016年

齋藤宏他 著 「姿勢と動作 第3版」 メチカルフレンド社 2010年

千野直一 他 編 「脳卒中の機能評価SIASとFIM(基礎編)」 金原出版 2012年

障害者福祉研究会 編 「ICF 国際生活機能分類 国際障害分類改定版」 2002年

柴 喜宗 他 編 「PT・OTビジュアルテキストADL第2版」 羊土社 2021年

【備考】

講義の際には名札を必ず着用すること。

【学修の準備】

予習は、次回の授業範囲の教科書を読んで理解しておくこと(80分)。

復習は、教科書や配布プリントなどを活用し、学習を深めておくこと(80分)。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2. 理学療法に必要な基礎的専門知識と技術を修得し、科学的思考のもと実践する能力を身につけている。

【実務経験】

鈴木英樹：理学療法士、認定理学療法士(補装具)、専門理学療法士(生活環境支援)、介護支援専門員

長谷川純子：理学療法士、福祉住環境コーディネーター1級

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関、訪問リハビリテーション及び行政での勤務経験を踏まえ、人々の生活を支援するための生活活動(生活動作)についての基本的な考え方や視点、さらには支援方策について具体的に講義を行う。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している